



平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アウトソーシング

コード番号 2427 URL <http://www.outsourcing.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 土井 春彦

問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長経営管理本部管掌 (氏名) 鈴木 一彦

TEL 03-3286-4888

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	33,609	8.0	401	△25.2	474	△24.8	333	62.6
24年12月期第3四半期	31,127	36.3	536	277.6	630	143.8	205	—

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 463百万円 (94.0%) 24年12月期第3四半期 238百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
25年12月期第3四半期	23.09		22.70	
24年12月期第3四半期	14.22		14.20	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
25年12月期第3四半期	17,101		4,914		25.3	
24年12月期	13,866		4,511		29.5	

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 4,318百万円 24年12月期 4,087百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
24年12月期	—	0.00	—	8.00	8.00
25年12月期	—	5.00	—		
25年12月期(予想)				8.00	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	50,000	18.8	1,520	52.0	1,590	37.9	1,000	56.0	69.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社コンピュータシステム研究所、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期3Q	15,655,700 株	24年12月期	15,569,800 株
② 期末自己株式数	25年12月期3Q	1,139,500 株	24年12月期	1,139,500 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期3Q	14,455,942 株	24年12月期3Q	14,430,300 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	9
4. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における事業環境は、当社グループの主要顧客である国内大手メーカーの動向として、電気・電子機器関連では期初にスマートフォン等の販売不振を受けた大規模な減産があり、その後も半導体や弱電等で既存製品からの撤退が相次いでおります。その一方、輸送機器関連や建材・住宅設備関連では新政権の経済政策や円安等が追い風となって大規模な増産が続いており、業種間のボラティリティーは非常に高まっております。このため、将来の変動に備える人材の流動化の要請は強く、さらに新政権による派遣関連法規も含めた規制緩和の可能性の高まりから、メーカーの派遣活用ニーズは非常に旺盛であります。

このような環境下、当社グループでは、上半期では、電機・電子機器関連の減産に伴うコストロスと、輸送機器関連や建材・住宅設備関連の増産に伴う先行コストが多く発生し、利益は伸び悩みましたが、下期以降の収益基盤を構築したことが奏功し、過去最高の第3四半期（7～9月期）の売上高・営業利益となり、第4四半期もこの基調が続く見通しです。

また、海外では、景気減速の兆しによって進出国の生産にも影響が出始めておりますが、積極的展開を進め、収益を大きく伸長しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は33,609,640千円（前年同期比8.0%増）、営業利益は401,445千円（前年同期比25.2%減）、経常利益は474,367千円（前年同期比24.8%減）、四半期純利益は333,851千円（前年同期比62.6%増）となりました。

(製造系アウトソーシング事業)

製造系アウトソーシング事業におきましては、期初にスマートフォンを中心とした弱電向け電子部品関連の大幅減産の影響を受けて人員の大幅減少に伴う一過性のコストが発生し、その後も周期的に同分野の生産調整の影響を受けたコストロスが発生しております。一方、輸送機器分野や建材・住宅設備分野を中心に経済政策や円安効果による増員受注を取り込み、人員増加に伴う初期費用も大きく発生しましたが、人員数も回復して売上は伸長し、上半期のロスも概ねキャッチアップしました。

以上の結果、売上高は15,466,225千円（前年同期比15.6%減）、営業損失は17,602千円（前年同期は24,271千円の営業利益）となりました。

(技術系アウトソーシング事業)

技術系アウトソーシング事業におきましては、国内生産の変動の影響を受けにくい分野を拡大させる重点戦略として掲げて強化しているIT・建設・アフターサービスの3分野それぞれが順調に拡大するとともに、従来からのメーカーへの技術者派遣事業も好調な輸送機器関連がけん引して収益を拡大させました。

特に、ビッグデータ関連をはじめとしてニーズが増大しているIT分野は技術者が600名を超え、国内でも有数のITサービスグループに成長し、建設分野も大手ゼネコンを中心に取引を拡大して技術者100名規模となりました。これらに従来から展開している機械・電子系や医薬系の技術者を合わせると、総勢2,400名を超える技術者集団を形成するまでに至りました。

以上の結果、売上高は12,218,691千円（前年同期比40.5%増）、営業利益は448,442千円（前年同期比7.2%増）となりました。

(管理系アウトソーシング事業)

管理系アウトソーシング事業におきましては、昨年の派遣法改正において、当初予想されていた製造派遣の原則禁止が盛り込まれなかったことに加え、新政権による派遣関連法規の規制緩和の可能性の高まりもあり、メーカーの直接雇用ニーズはやや減速しております。

また、リーマンショック後の増産を製造派遣活用にて対応したメーカーが3年後の抵触日を迎えて対応を迫られる、いわゆる2012年問題は、昨年後半の尖閣諸島問題の影響による大減産によってクーリング期間を乗り越えることが出来たメーカーも多く、今回の輸送機器関連の増産対応も派遣活用で立ち上げるメーカーが多く見受けられます。

しかし、従来より自社雇用の期間工を中心に活用してきたメーカーは派遣に切り替えることなく、期間工増員対応のニーズも相応にあることから、当事業は堅調に推移しました。

以上の結果、売上高は465,906千円（前年同期比0.4%増）、営業利益は124,205千円（前年同期比32.7%減）となりました。

(人材紹介事業)

人材紹介事業におきましては、関連する管理系アウトソーシング事業が堅調であったことに加え、増産基調の輸送機器関連において、一部で期間工の採用委託ニーズが高まり、順調に収益を拡大しました。

以上の結果、売上高は294,167千円（前年同期比9.3%減）、営業利益は64,211千円（前年同期比30.6%減）となりました。

(海外事業)

海外事業におきましては、当社が主に展開する東南アジア地域の経済は成長鈍化の兆しが出ており、今後の生産への影響が予想されますが、日本国内に比べると依然として高い成長を続けており、日系メーカーの同地域での生産も相応に伸びております。この環境下、細やかな対応を行う日系人材サービス会社としての当社グループに対する期待は高く、大規模な増員ニーズにも対応して初期費用も多く発生しましたが、タイやベトナムを中心に大きく売上を伸長することができました。

以上の結果、売上高は5,016,109千円（前年同期比57.0%増）、営業利益は80,359千円（前年同期は51,715千円の営業損失）となりました。

(その他の事業)

その他の事業におきましては、国内自動車メーカーの高級ブランド向けOEM部品販売が順調で、自動車レース向けは一部レギュレーション変更の影響がありましたが、全体としては高性能自動車部品の製造販売は堅調に推移しました。

以上の結果、売上高は148,539千円（前年同期比29.0%増）、営業利益は3,102千円（前年同期比62.1%減）となりました。

(2)連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は17,101,442千円となり、前連結会計年度末に比べ3,235,031千円の増加となりました。これは主に連結子会社の増加等によるものであります。

負債につきましては、負債合計が12,186,995千円となり、前連結会計年度末に比べ2,832,453千円の増加となりました。これは主に連結子会社の増加及び借入金の増加等によるものであります。

純資産につきましては、純資産合計が4,914,447千円となり、前連結会計年度末に比べ402,578千円の増加となりましたが、これは主に連結子会社の増加等を反映したものであります。

(3)連結業績予想に関する定性的情報

平成25年12月期通期の業績予想につきましては、平成25年7月23日に公表いたしました平成25年の通期業績予想から変更はございません。

当該予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、当該予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は平成25年1月31日開催の取締役会において、株式会社コンピュータシステム研究所の株式80.9%を取得し、子会社化することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結しております。

これに伴い、同社の資本金の額が当社の資本金の額の100分の10以上に相当し、当社の特定子会社に該当することとなり、連結の範囲に含めております。

なお、平成25年2月28日及び同年6月27日付で株式を追加取得し、持分が91.0%となっております。

当社の特定子会社であるアスカ・クリエイション株式会社は、平成25年9月1日を効力発生日として、当社の特定子会社である株式会社アウトソーシング・システム・コンサルティングに吸収合併されたことにより、消滅いたしました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,363,905	4,075,857
受取手形及び売掛金	5,232,946	5,761,632
仕掛品	64,131	120,952
原材料及び貯蔵品	68,269	74,228
その他	726,853	1,067,730
貸倒引当金	△24,829	△29,549
流動資産合計	9,431,277	11,070,851
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,156,196	1,131,453
その他(純額)	852,782	874,089
有形固定資産合計	2,008,979	2,005,542
無形固定資産		
のれん	1,108,194	1,331,068
その他	264,733	465,908
無形固定資産合計	1,372,927	1,796,977
投資その他の資産		
その他	1,052,639	2,229,167
貸倒引当金	△1,091	△1,096
投資その他の資産合計	1,051,548	2,228,071
固定資産合計	4,433,455	6,030,590
繰延資産	1,677	—
資産合計	13,866,410	17,101,442
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	208,694	276,724
短期借入金	2,574,917	3,156,743
未払金	2,341,638	2,909,302
未払法人税等	130,496	212,534
賞与引当金	14,829	370,581
その他	1,605,147	1,307,145
流動負債合計	6,875,722	8,233,031
固定負債		
社債	76,750	50,000
長期借入金	1,582,044	2,780,833
退職給付引当金	356,661	502,567
負ののれん	186,378	82,625
その他	276,984	537,937
固定負債合計	2,478,818	3,953,963
負債合計	9,354,541	12,186,995

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	485,443	510,566
資本剰余金	881,614	906,737
利益剰余金	3,032,600	3,133,104
自己株式	△391,094	△391,094
株主資本合計	4,008,563	4,159,312
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,894	26,223
為替換算調整勘定	75,780	132,624
その他の包括利益累計額合計	78,674	158,848
新株予約権	103,566	119,764
少数株主持分	321,064	476,521
純資産合計	4,511,869	4,914,447
負債純資産合計	13,866,410	17,101,442

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	31,127,547	33,609,640
売上原価	24,959,449	27,237,034
売上総利益	6,168,097	6,372,606
販売費及び一般管理費	5,631,373	5,971,160
営業利益	536,724	401,445
営業外収益		
受取利息	5,848	9,853
受取配当金	2,836	9,315
不動産賃貸料	304,898	293,524
負ののれん償却額	103,749	103,753
持分法による投資利益	35,232	2,184
その他	43,895	91,421
営業外収益合計	496,459	510,052
営業外費用		
支払利息	27,615	36,064
不動産賃貸原価	337,297	292,487
ポイントプログラム解除金	—	78,757
その他	37,476	29,821
営業外費用合計	402,389	437,130
経常利益	630,794	474,367
特別利益		
固定資産売却益	1,179	544
投資有価証券売却益	—	14,118
負ののれん発生益	15,344	78,484
特別利益合計	16,524	93,146
特別損失		
固定資産除売却損	6,911	—
減損損失	39,221	—
事務所移転費用	69,960	—
特別損失合計	116,093	—
税金等調整前四半期純利益	531,224	567,514
法人税、住民税及び事業税	213,643	262,936
法人税等調整額	107,419	△100,283
法人税等合計	321,062	162,652
少数株主損益調整前四半期純利益	210,162	404,861
少数株主利益	4,872	71,010
四半期純利益	205,290	333,851

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	210,162	404,861
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,341	25,970
為替換算調整勘定	25,326	32,384
その他の包括利益合計	28,668	58,354
四半期包括利益	238,830	463,216
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	231,631	414,025
少数株主に係る四半期包括利益	7,198	49,191

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日）

「II 当第3四半期連結累計期間 3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通りであります。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他の 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	製造系 アウトソーシ ング 事業	技術系 アウトソーシ ング 事業	管理系 アウトソーシ ング 事業	人材紹介 事業	海外 事業	計				
売上高										
(1) 外部顧客への 売上高	15,466,225	12,218,691	465,906	294,167	5,016,109	33,461,101	148,539	33,609,640	—	33,609,640
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	263,035	73,684	—	6,872	99,422	443,015	—	443,015	△443,015	—
計	15,729,261	12,292,376	465,906	301,040	5,115,532	33,904,116	148,539	34,052,656	△443,015	33,609,640
セグメント利益 又は損失 (△)	△17,602	448,442	124,205	64,211	80,359	699,616	3,102	702,719	△301,273	401,445

(注) 1 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、株式会社アネブルにて自動車用高性能部品等の開発製造販売を行っております。

2 セグメント利益又は損失 (△) の調整額△301,273千円は、のれんの償却額△304,824千円、セグメント間取引3,550千円であります。

3 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「海外事業」セグメントにおいて、平成25年3月1日付でP-ONE Subcontract Co., Ltd.の株式取得を行い、新たに連結子会社としたことにより、50,233千円増加しております。

「製造系アウトソーシング事業」セグメントにおいて、平成25年5月17日付で株式会社ブラザーズ、平成25年6月27日付で日本商務株式会社の株式取得を行い、新たに連結子会社としたことにより、それぞれ145,923千円及び254,411千円増加しております。

(重要な負ののれん発生益)

「技術系アウトソーシング事業」セグメントにおいて、平成25年1月31日付で株式会社コンピュータシステム研究所の株式を新規に取得し、また平成25年2月28日及び平成25年6月27日付で追加取得したことに伴い、78,484千円計上しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

従来、報告セグメントを「生産アウトソーシング事業」、「管理業務アウトソーシング事業」の区分としておりましたが、当第1四半期連結累計期間より、「製造系アウトソーシング事業」、「技術系アウトソーシング事業」、「管理系アウトソーシング事業」、「人材紹介事業」、「海外事業」の5区分へ報告セグメントの変更を行っております。

なお、変更後の区分により作成した前第3四半期連結累計期間に係る報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報及び報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報は、以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他の事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益 計算書 計上額 (注)3
	製造系 アウトソーシ ング 事業	技術系 アウトソーシ ング 事業	管理系 アウトソーシ ング 事業	人材紹介 事業	海外 事業	計				
売上高										
(1) 外部顧客への 売上高	18,335,329	8,694,545	463,916	324,433	3,194,195	31,012,419	115,127	31,127,547	—	31,127,547
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	344,382	26,822	29,335	—	34,596	435,136	—	435,136	△435,136	—
計	18,679,712	8,721,367	493,251	324,433	3,228,791	31,447,556	115,127	31,562,683	△435,136	31,127,547
セグメント利益 又は損失(△)	24,271	418,478	184,641	92,579	△51,715	668,254	8,178	676,433	△139,709	536,724

(注) 1 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、(株)アウトソーシングセントラルにてレースを中心とした自動車用高性能部品等の開発製造販売を行っております。

なお、(株)アウトソーシングセントラルは、平成24年5月1日付で(株)アネブルに商号変更いたしました。

- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△139,709千円は、のれんの償却額△193,881千円、セグメント間取引54,172千円であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「製造系及び技術系アウトソーシング事業」セグメントにおいて、事務所移転に伴い、使用が見込まれない固定資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、39,221千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「技術系アウトソーシング事業」セグメントにおいて、平成24年1月30日付でアスカ・クリエイション株式会社、平成24年7月30日付で株式会社グレイスケールの株式取得を行い、新たに連結子会社としたことにより、それぞれ153,900千円、355,484千円増加しております。

(重要な負ののれん発生益)

「製造系アウトソーシング事業」セグメントにおいて、平成24年3月28日付で連結子会社である株式会社アウトソーシングセントラルの株式を追加取得したことに伴い、15,344千円計上しております。

4. 補足情報

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)		
	金額 (千円)	構成比 (%)	前年同四半期比 (%)
製造系アウトソーシング事業	15,466,225	46.0	△15.6
食品関係	1,158,556	3.5	△10.3
電気機器関係	3,071,348	9.1	△21.7
輸送用機器関係	4,618,150	13.7	△24.3
化学・薬品関係	2,721,138	8.1	3.0
金属・建材関係	1,947,602	5.8	△31.6
その他	1,949,429	5.8	27.5
技術系アウトソーシング事業	12,218,691	36.4	40.5
電気機器関係	1,660,926	4.9	△3.4
輸送用機器関係	3,634,010	10.8	22.9
化学・薬品関係	623,850	1.9	15.4
金属・建材関係	8,135	0.1	△56.4
IT関係	4,072,214	12.1	131.5
建設・プラント関係	295,518	0.9	—
アフターサービス	183,296	0.5	—
その他	1,740,739	5.2	2.3
管理系アウトソーシング事業	465,906	1.4	0.4
人材紹介事業	294,167	0.9	△9.3
海外事業	5,016,109	14.9	57.0
その他の事業	148,539	0.4	29.0
合計	33,609,640	100.0	8.0

(注) 1 セグメント間の取引につきましては相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 セグメント区分は、事業の種類・性質の類似性を考慮して行っております。

4 各セグメントの主な事業

- (1) 製造系アウトソーシング事業・・・当社及び当社子会社にて、メーカーの製造工程の外注化ニーズに対し、生産技術、管理ノウハウを提供し、生産効率の向上を実現するサービスを提供しております。
- (2) 技術系アウトソーシング事業・・・当社及び当社子会社にて、メーカーの設計・開発、実験・評価工程への高度な技術・ノウハウを提供するサービス、IT・通信分野におけるアプリケーション開発や基幹系ITシステム・インフラ・ネットワークの各種ソリューションサービス、建設施工管理・設計や各種プラントの設計・施工・管理等の専門技術・ノウハウを提供するサービス、家電を中心としたアフターメンテナンスサービス等を行っております。
- (3) 管理系アウトソーシング事業・・・当社及び当社子会社にて、メーカーが直接雇用する期間社員の労務管理や社宅管理等に係る管理業務受託事業、及び期間満了者の再就職支援までを行う、一括受託サービスを提供しております。
- (4) 人材紹介事業・・・当社及び当社子会社にて、メーカーが直接雇用する期間社員の人材紹介事業を行っております。
- (5) 海外事業・・・在外子会社にて、幅広い分野の人材サービスを提供しております。
- (6) その他の事業・・・当社子会社にて、自動車関連メーカーの研究開発における部品の試作や、レースを中心とした自動車用高性能部品等の開発製造販売を行っております。

地域別売上高は、次のとおりであります。

地域	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)		
	金額 (千円)	構成比 (%)	前年同四半期比 (%)
日本	28,593,531	85.1	2.4
アジア・オセアニア	5,016,109	14.9	57.0
合計	33,609,640	100.0	8.0

- (注) 1 セグメント間の取引につきましては相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。